

貯 法: 室温保存。開封後も遮光し、湿気を避けて保存すること。(本剤は特に吸湿しやすい製剤である。)
使用期限: 外箱に表示の使用期限内に使用すること。
(使用期限内であっても開封後はなるべく速やかに使用すること。)

調 剤 用 パンビタン®末 「タケタ」

PANVITAN® POWDER for Prescription

承認番号	薬価収載	販売開始
(40A) 431	1954年9月	1954年7月
再評価結果		1985年7月

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

妊娠3ヶ月以内又は妊娠を希望する婦人へのビタミンA 5,000IU/日以上との投与(ビタミンA欠乏症の婦人は除く)
(「妊婦、産婦、授乳婦への投与」の項参照)

* 【組成・性状】

調剤用パンビタン末(1g中)

ビタミン	パルミチン酸レチノール	レチノールとして 2,500I.U.
	硝酸チアミン	1mg
	リボフラビン	1.5mg
	塩酸ピリドキシン	1mg
	シアノコバラミン	1μg
	アスコルビン酸	37.5mg
	エルゴカルシフェロール	200I.U.
	酢酸トコフェロール (トコフェロールとして)	1.1mg (1mg)
	パントテン酸カルシウム	5mg
	ニコチン酸アミド	10mg
	葉酸	0.5mg
性状	橙黄色の粉末(重質末)。レモン様においがある。	

添加物: ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、安息香酸ナトリウム、デヒドロ酢酸ナトリウム、サッカリンナトリウム、ソルビタン脂肪エステル、ゼラチン、白糖、乳糖、軽質無水ケイ酸、レモン油

【効能・効果】

本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給
(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦等)
効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

通常成人1日1～2gを経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

本剤には葉酸が配合されているので、悪性貧血の患者に投与すると、血液状態は改善するが、神経症状に効果がないので、悪性貧血の患者に投与する場合には適切な治療を行うこと。

なお、診断の確立していない悪性貧血の患者の場合、血液状態の改善により悪性貧血を隠蔽し、診断及び治療に影響を与えるので注意すること。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(再審査対象外)

(1) 過剰症: 過剰投与により、次のようなビタミンA、D過剰症状(頻度不明)があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

ア) ビタミンA過剰症

大泉門膨隆、神経過敏、頭痛、食欲不振、嘔吐、肝腫大、脱毛、痒痒感、体重増加停止、四肢痛

イ) ビタミンD過剰症

口渇、食欲不振、便秘、多尿、体重減少、発熱

(2) 過敏症: 発疹、紅斑、痒痒感(頻度不明)等があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。

3. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊娠3カ月以内又は妊娠を希望する婦人には、ビタミンA欠乏症の治療に用いる場合を除いて本剤を投与しないこと。なお、ビタミンAの補給を目的として本剤を用いる場合は食品などからの摂取量に注意し、本剤による投与は5,000IU/日未満に留めるなど必要な注意を行うこと。[外国において、妊娠前3カ月から妊娠初期3カ月までにビタミンAを10,000IU/日以上摂取した女性から出生した児に、頭蓋神経堤などを中心とする奇形発現の増加が推定されたとする疫学調査結果がある。]

(2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には大量投与を避けること。[ビタミンDの大量投与により胎児障害を起こすとの報告がある。]

4. 小児等への投与

ビタミンA、D過剰症を起こしやすいので、注意すること。

5. 臨床検査結果に及ぼす影響

尿を黄変させ、臨床検査値に影響を与えることがある(ビタミンB₂による)。

【薬効薬理】

糖質、蛋白質、脂質の生体内代謝は、各種ビタミンの相互協力の下で行われ、いずれのビタミンが欠乏しても生体内代謝の円滑を欠き生体機能の維持が困難となる。

また、ビタミン欠乏症は、複合ビタミン欠乏症の形であられることが多く、相関する生理あるいは薬理作用をもつ数種のビタミンを投与することが合理的である。¹⁻⁵⁾

試験的には、ラットの成長⁶⁻⁷⁾、胎児・新生児の成長⁸⁾、運動能力⁹⁾等や、ヒトの妊娠経過⁹⁾に複合ビタミンが好影響をおよぼすことが示されている。

【取扱い上の注意】

【注 意】本剤はアルカリ剤、吸湿性薬剤と配合しないこと。

【包 装】

100g、500g(100g×5)、1kg(200g×5)、5kg(500g×10)

【主要文献】

- 1) 岸川基明他：診断と治療，56：91，1968.
- 2) 島 菌 順 雄：日本薬剤師会雑誌，7：2，1955.
- 3) 吉田順一他：総合臨牀，6：1161，1957.
- 4) 中村恒男他：小児科診療，17：194，1954.
- 5) 岸川基明他：総合臨牀，14：2002，1965.
- 6) Tikhomirova, A. N. et al：Vopr. Pitan., 22：46，1963.
- 7) 早川清一他：食糧研究所研究報告，14：9，1959.
- 8) Pfaltz, H. et al：Am. J. Obst. Gynecol., 72：265，1956.
- 9) Baker, H. et al：Am. J. Clin. Nutr., 28：59，1975.

【文献請求先】

武田薬品工業株式会社

医薬開発本部 日本開発センター 医薬情報部
〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

製造発売元

武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号